

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ラティチュード	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.511	△RG	0.045	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ラティチュード

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

4-1/2

番

研磨剤

比較対照ボール：トライトン・エリート

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

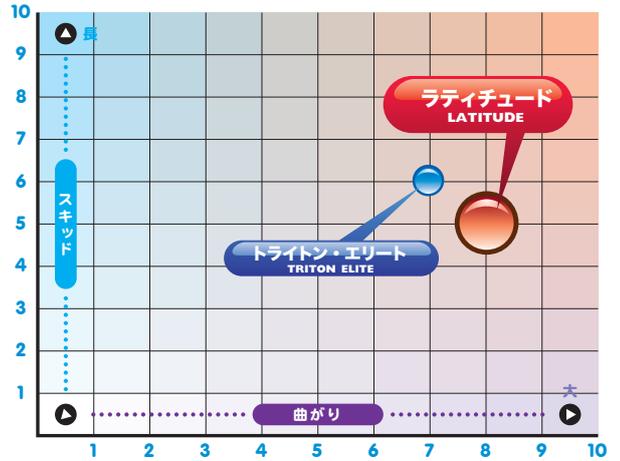
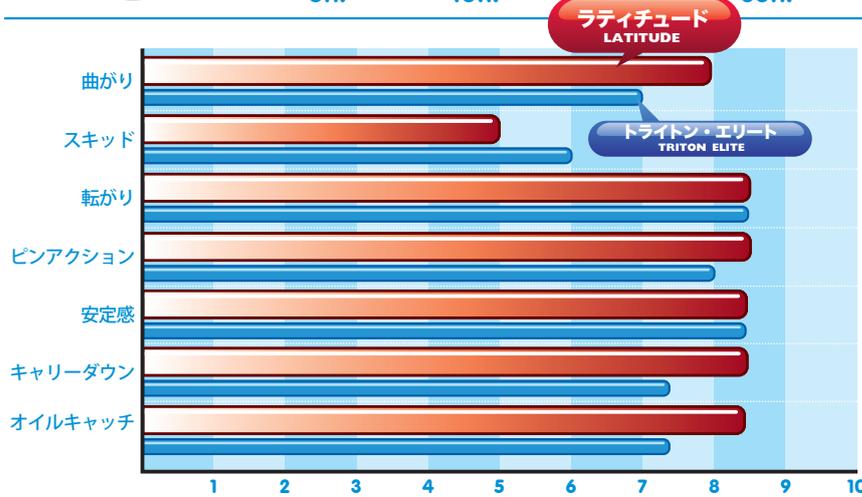
4-1/2

番

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- パフ



レーンコンディション	バックエンドリアクション	レンジス
Light Oil	Smooth	Early Roll
Light to Medium	Smooth to Arc	Early to Med
Medium Oil	Arc	Med-Lane
Medium to Heavy	Arc to Sharp	Med to Late
Heavy Oil	Sharp Angle	Late Roll

ボールの評価

TRACK社でPROOFと同じ今回キャッチ系を担ったボールがこのLATITUDE。パフォーマンス領域はミディアムオイル対応で、コアはTriton EliteのMC2コアをModifyしました。現行のEBIカバーのQR-7 SolidからEBIのウレタンとブランチウィックのケミカルを混入させた新しいQR-8 Solidへと変わりましたが、全く別物のボールに進化したようなイメージに仕上がったと思います。領域的には発表はMid Performance領域なのですが、Midでまがりのイメージが出ていたTriton Eliteのイメージが一変し、先でシャープに切れるイメージのボールに仕上がったのがLATITUDEです。実際に投球してみると3000Siaairというブランチウィックのマイクロパッド仕上げですが、パワーがバックエンドに凝縮されており、それでいて手前のオイルにも負けないキャッチ力も出ているという、Mid Performance領域から少し上の領域ではないかと思うぐらい、この領域では贅沢に仕上げられている感じもありますし、今までのMC2コアのイメージがかなり変わったというのが印象です。もちろんカバーが変わればパフォーマンスも変わるのは必然ですが、キャッチを活かしながらこれだけバックエンドの動きを重視できることは今までのEBIではできなかったことでもあり、今回ブランチウィックにEBIの技術者が招集され、ブランチウィックのTechnologyと融合できたことは革新的とも言えます。そしてこれから益々さらなるパフォーマンスが期待できるブランドと断言できます。発売まで短期間で発売にこれだけのパフォーマンスを用意できる底力と、世界シェアNo1を目指すグループの結集力がパフォーマンスとして表れていると思います。EBIでは出ない、またブランチウィックだけでも出ないパフォーマンスがLATITUDEで出ています。まずは技術が融合されたカバーの性能がどれほど変わったのか、知るところからでしょう。

特記事項

Triton Eliteイメージとはまた違った、バックエンドでエネルギーが一気にできるシャープなリアクションが特徴です。ミディアムから少し上の領域で、ラインを攻められるボールです。